

## 共同機構研修会 申込方法が変わります！



### <申込方法について>

- 申込みの期間を設定します。期間内にお申込みください。  
 申込開始…研修実施日の4週前の9時  
 申込締切…研修実施日の2週前の16時  
 \* 但し、4月25日と8月29日の研修については申込期間が通常と異なりますのでご注意ください。
- 申込状況については、締切日の17時にこどもみらい館ホームページの共同機構研修のページにてお知らせしますので、ご確認ください。
- 申込締切日をもって定員に達しなかった場合は、お申込みいただいた園は全て受講いただけます。また、定員まで引き続き申込みを受け付けます。
- 申込締切日をもって定員以上の申込みがあった場合は、申し込み順で調整させていただきます。調整の結果、参加いただけない園には、こどもみらい館から連絡いたします。

### <会場について>

- 全ての研修会場は椅子のみの設定とします。机がありませんので、メモをとるためのボード等は各自ご持参ください。
- メイン会場の第1研修室には早く受付を済まされた方から入室していただきます。空席がでないよう、前方の席からお座りください。
- 満席になり、第1研修室で受講できない方は、他の会場でのモニター受講になります。ご了承ください。

### 平成30年度共同機構研修計画

#### 研修のねらい

乳幼児期一人ひとりの豊かな育ちを保障する保育者のかかわりや子どもの育ちを理解し、保育の振り返りを行うことで改めて保育を見直すことにより、保育の質の向上と今日的な課題を見据えた研修とする。

#### 30年度のポイント

- 新幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の実践にむけて
- 公開保育を伴う研修の充実
  - ・ 実施回数を2回に増
  - ・ 保育園(所)の公開保育を新規実施
  - ・ ミドルリーダー育成に焦点をあてて
- 研究プロジェクトの成果を踏まえての研修

# 子どもの貧困と子育て支援

講師 幸重 忠孝 幸重社会福祉士事務所代表

「絶対的貧困」は、食べ物や住まい、着るものがないという暮らしであり、「相対的貧困」は他の家庭と比べてお金がないということで、これは、見えにくい問題と言われ子どもの13.9%、7人に1人の割合と言われています。

中間所得層(37歳の夫婦と中学1年生の核家族の場合)は、家計を1ヶ月約34万円でやりくりしますが、相対的貧困家庭はその半分以下17万円で生活します。この金額なら、住まいを見つけられず、餓死することもありますし、着るものも、最近では低価格で揃えられます。しかし、日常生活でお金に悩むということは、親が子どもと将来を話し合うことが奪われ、どう乗り切るのがかばかりになってしまいます。そして、子どもは、様々な選択肢が奪われ、誰もが多様な生き方ができるはずなのにそれができず、他の子と同じことが出来ない時、本当はお金が無くてもできないのに、全部自分のせいにして自分が悪いからだと思うのです。こうして、自己肯定感がじわじわ奪われていくのです。乳幼児期の子どもたちはこのような貧困については自分では分からないので、私たちが配慮しなければなりません。

保育中の食事や遊びの場面では、発達の視点だけでなく、貧困からの経験不足かもしれないという視点で子どもをみてください。そして、親たちは園(所)などの子育て支援の場には行きにくい現状もあるので、地域の中に多様な場があることが求められます。そして、皆さんは、親子のことをしっかりとキャッチできる保育の現場にいますので、それらの居場所が手をつなぎ、地域がつながって支援を広げることが大事です。

また、貧困家庭は、人から助けられるだけの存在ではなく、今はお金がなくて力を発揮できていませんが、このような家庭が力を発揮し、子どもたち自身が活躍して欲しいと願っています。その為には、子ども食堂の取組など、皆さんが間に入ってさまざまな人を巻き込んで一緒に活動してください。そうすることで地域が元気になっていきます。地域は、少子化の中で子どもが存在しているだけで応援したくなり、子どもを大事にしてくれるのです。そして、私は、子どもたちが地域で力を発揮し、どのような家庭であっても元気に育っていけるような街を作っていくことが、一つの貧困対策になると思っています。

講義の詳細は、要録ページをご覧ください。 [要録ページへ](#)

# 乳児期の保育における大人のかかわり

講師 長瀬 美子 大阪大谷大学教授

乳児期の保育において子どもの主体性を育てるかかわりや自我を育てるかかわり、子どもが楽しさと出合うためのかかわりについてお話しします。

主体性を育てるためには子どもが自分からしようと思えるような環境作りが大事です。つまり、生活や行為の現在とその一つ先の見通しができる子どもの視線や動線にあった環境や安心できる他者が見守ってくれることが子どもの主体性を育てていきます。また、子どもが興味をもったことは何でもさせてやりたいですが、興味が湧きやってみようという意志が生まれる「心のスタンバイ」とそれが実行できる「身体のスランバイ」が揃った時に、やりたいこととよい出会いができ、自分の力で叶える経験をするからこそ主体性につながります。

乳児期は、芽生え始めた自我を尊重して大切に育てながら、見通しを持ってかかわってくれる大人の存在が欠かせません。私たちは、子ども自身の意志を大切にしたい保育をする必要があります。子どもの意志や願いは、すべては叶いませんが、幼児になってからではなく、出来て嬉しかったことや、悔しかったことを大好きな人が分かってくれることから思いが切り替わる経験を積み重ねます。

そして、私に思いがあると同様に、人には人の思いがあるということも学びます。私とは違う思いがあると知っていくことは、相手の気持ちを考えるための第一歩です。一人ひとりに思いが生まれる乳児期こそ、子どもに、自分とは違う思いがあることを知って欲しいと思います。

また、楽しい遊びが自分の周りであることを知り、楽しいことと出会うことが大事です。子どもは自分で知ることができないので、大人がきっかけを作って伝えます。私たちは、まずは、子どもにその遊びによってどんな発達をもたらされるのかを見通し、その中で、生活面でも遊びでも子どもがやってみたい気持ちを大切に、できたという経験から楽しいことを知るスタートが乳児期です。

主体性と自我の育ちと楽しさとの出会いを大切に、子どもの気づきを見取って思いを読み取り、それをさらに楽しい事ややってみたいことにつなげることを大事にしながら、大切な乳児期を丁寧に見守りつつ、子どもたちの豊かな経験を引き出して欲しいと思います。

講義の詳細は、要録ページをご覧ください。 [要録ページへ](#)

# 困り感を持つ子どもへの作業療法支援

講師 灘 裕介 有限会社あーと・ねっと作業療法士

作業療法は決して訓練や練習ではありません。遊びという作業を通して日常生活の中の困り感や苦手な事象の解決を進めるものです。子どもの行動には必ず理由が存在し、その理由を見つけ、解決につなげます。

子どもの発達には、身体の発達と心の発達があります。心の発達とは脳の発達で、脳と身体をつなぐのが感覚です。脳科学研究においても身体を動かすことが脳を育てると言われていますし、身体を動かすことが感覚を感じるようになります。感覚には、五感(見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる)に加えて、重力を感じる前庭覚と筋肉や関節から動きや圧を感じる固有受容覚があります。

前庭覚と固有受容覚と触覚の3つの感覚は、身体(ボディイメージ)を育てる感覚です。子どもは、ボディイメージが曖昧だと描画で人の身体を描けなかったり、どのように身体を動かせばいいかわからないので運動しながらになります。また、運動のイメージが捉えられないことから言葉や概念が育ちにくくなります。ボディイメージは運動や器用さに関係し、指示の理解や応答にもつながっています。他にも抽象思考や概念理解として、「大きい」「長い」「短い」なども動きが伴いながら身体を通して理解しています。

感覚欲求は誰にでもある生理的欲求です。一般的な趣味や癖に現れそれだけでは足りないを補おうとし、子どもには神経系を安定させる作用がありますので、周囲からみれば困った行動でも、子どもにとっては問題解決行動になります。例えば、多動な子どもは、動くことで脳に刺激を送り充電して機能させています。その子に「動かないで」「今はじっとする時だよ」と言ってしまうと充電ができず、結局、脳が力を発揮できません。このような子どもには、しっかりと充電するために、じっとする前に存分に脳と身体を使ってしっかりと感覚を感じ取る遊びをしてください。

就学前施設の先生方の専門性と今日の私の話のいいところを組み合わせながら、これからも子どもたちを捉えていただければと思います。いいところを保育に組み込むことで、子どもの見立てが広がると思います。

大人にも困り感と同じようにあり、誰にでもあって特別なものではありません。これを、医療の場では障害と言いますが、私は、一人一人の個性だと見えていますし、その個性の中に困り感の強さ弱さがあると考えます。困り感を持つことは誰しも等しいことですが、私は、その中で強く困っているのであれば手伝いたいと思っています。

講義の詳細は、要録ページをご覧ください。 [要録ページへ](#)

ここに掲載した3つの研修の要約を読まれて興味をもった方は、更に学びを深める講義録を是非ご覧ください。詳細は下記をご参照ください。

## 講義録を読んで学ぼう!



### 共同機構研修会の講義内容を 講義録で読んでみませんか

共同機構研修会は勤務時間内に実施しており、園(所)の体制上、興味のあるテーマであっても参加できるとは限りません。参加したかった方はもちろん、こどもみらい館では、毎日の保育で、困ったな、どうしようと悩んでいる方にむけても、平成23年度共同機構研修会から、講義でお話された内容を講義録にしてホームページに掲載しています。

様々なテーマで研修を実施していますので、例えば、「子どもの主体性って何だろう」「保護者の気持ちがわからない」など保育の悩みにあった講義録が見つかると思います。是非、一度こどもみらい館のホームページ、研修・研究をご覧ください。

### ☆講義要録の検索方法☆

- ①こどもみらい館HP
- ↓
- ②研修・研究
- ↓
- ③共同機構研修
- ↓
- ④講義要録
- ↓
- ⑤平成23年度～平成29年度  
(30年度分は年間計画表から)

## 平成30年度研修

日時	講座名・内容等	講師名	備考
4月25日(水) 15:00～17:00	<b>保育における「教育の働き」</b> 子どもがよりよく育て欲しいという願いは皆同じ。けれども、その思いばかりを押し付けて保育者主導の一方的な働き方になり、子どもを受け身にし、主体としての育ちを疎外していないだろうか。要領・指針等が変わった今だからこそ、保育における「教育の働き」について学び、改めて子どもの心育てる保育について学ぶ。	鯨岡 峻 京都大学 名誉教授	(公社)京都市私立幼稚園協会共催
5月16日(水) 15:00～17:00	<b>0・1・2歳児のココロを読みとく保育のまなざし</b> 乳児期からの集団保育の需要が増えつつある今、目には見えにくい心の育ちを保障する大きな役割が保育の場に、私たち保育者に求められている。子どもの行動や表現の奥にある、学びや思いを、日常の一瞬一瞬から読みとく、育ちを見つめるまなざしの大切さについて、たくさんの子どもの事例から学ぶ。	井桁 容子 東京家政大学 ナースリールーム 主任	京都市保育士会共催
6月22日(金) 9:45～14:00 (内、移動と昼食の時間を含む)	<b>ミドルリーダーに求められるもの ～保育園(所)の公開保育から～</b> 保育園(所)の保育を参観し、検討することを通して、様々な園(所)の保育者と共に保育の質を探索し、共に高めよう。また、事前のオリエンテーションや検討会の進め方等から、園(所)内研修の充実に活かす。 公開保育実施園：京都市改進黨保育所、京都市崇仁保育所	古賀 松香 京都教育大学 准教授	(公社)京都市保育園連盟共催 公開保育を伴う研修
7月18日(水) 15:00～17:00	<b>気持ちに寄り添う子育て支援 ～子育て支援研究プロジェクト報告会～</b> 保護者の気持ちに寄り添うことについて、公立・私立の保育園(所)・幼稚園の先生方でエピソードの検討等を重ねながら意見交換してきた。その中の、保護者自身を1人の主体として尊重し、ありのままの姿を認めることの重要性を報告する。また、今回作成した「親の気持ちを考えるミニエピソード集」を用いて、参加者でグループ討議を行い、子育て支援者として共に学ぶ。	鯨岡 峻 京都大学 名誉教授 大倉 得史 京都大学大学院 准教授	研究プロジェクト研修
8月3日(金) 14:30～17:00	<b>子どもの心の育ちを共有し、心を育む保育・教育を広げ、実践しよう ～子どもの心の育ちの連続性研究プロジェクト報告会～</b> 公立・私立の保育園(所)・幼稚園・認定こども園と小学校の先生方が集い、「子どもの心の育ち」について語り合ってきた中から、互いに理解し合っていく過程や、子どもの心をつなげ、積み重ねていける連携や接続の実践例やポイント等について報告し、参加者と共に考える。	鯨岡 峻 京都大学 名誉教授	研究プロジェクト研修
8月29日(水) 15:00～16:30	<b>親子の気持ちに寄り添う支援を考えよう ～私たちにできる連携とは～</b> 京都市内の親子の置かれている現状を踏まえた講義を聞いた後、それらの親子への支援について保育者と子どもはぐくみ室の職員がグループ討議を行い、地域でのつながりを深め日常の連携に活かす。	笠井八千代 右京区役所 保健福祉センター 子どもはぐくみ室 室長	育成推進課との特別研修
9月19日(水) 12:30～17:00	<b>ミドルリーダーに求められるもの ～幼稚園の公開保育から～</b> 幼稚園の保育を参観し、検討することを通して、様々な園(所)の保育者と共に保育の質を探索し、共に高めよう。また、事前のオリエンテーションや検討会の進め方等から、園(所)内研修の充実に活かす。 公開保育実施園：京都市立中京もえぎ幼稚園	古賀 松香 京都教育大学 准教授	(公社)京都市私立幼稚園協会共催 公開保育を伴う研修
10月29日(月) 15:00～17:00	<b>主体的に関わる・試行錯誤する・考えるための環境とは</b> 要領や指針の改訂においても変わらない基本的な考え方として、「環境を通して行うものであること」と強調されている。物的な環境を整えてさえおけばよいのではなく、なぜその環境をしつらえようと思ったのかという保育者のねらいや願い、保育者そのものや自然等の環境の重要性について学ぶ。	奥山 登美子 元関西国際大学 教授	(公社)京都市保育園連盟共催
11月16日(金) 18:30～20:30	<b>子どもの分かりたいに込めよう！(発達障害の理解) ～親の思いに寄り添って～</b> 自分の辛さを言葉で表現できない子どもたちは様々な行動で示す。私たちは子どもを目の前にして、どのように行動を読み解くのか。そして、気持ちをくみ取り、わかってあげられるのか。発達障害の基礎について学び、加えて、保護者の気持ちにも目を向けながらその支援を学ぶ。	萬木 はるか 京都市発達障害者 支援センターかが やき臨床心理士 岡崎 達也 京都市児童福祉センター発達相談所 発達相談課担当係 長	夜間講座
未定	<b>保・幼・小・中連携推進事業報告(仮題)</b> 教育委員会「豊かな学びリーディングスクール推進事業」において保幼小接続をテーマにしている校園(所)による実践報告から学ぶ。		教育委員会 学校指導課との合同 研修

子どもを育む喜びを感じ、  
親も育ち学べる取組を進めます。  
「京都はぐくみ憲章」より



この印刷物が不要になれば  
「雑がみ」として古紙回収等  
へ!



発行日 平成30年3月22日  
 発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館  
 〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1  
 Tel (075)254-5001 Fax (075)212-9909  
 URL <http://www.kodomomirai.or.jp>